

The logo for SOSHIN, featuring the word "SOSHIN" in a bold, sans-serif font inside a white oval with a dark border. The background of the entire page is a photograph of a massive glacier with a waterfall of ice and snow cascading down its face into a body of water. The sky is a clear, pale blue.

SOSHIN

2017

社会・環境レポート

双信電機株式会社
SOSHIN ELECTRIC CO., LTD.

双信パワーテック株式会社

双信デバイス株式会社

立信電子株式会社

SOSHIN ELECTRONICS(M)SDN. BHD

事業概要

2017 社会・環境レポート

目次

■事業概要ほか

会社概要・事業拠点・財務ハイライト	1
事業領域と関連製品	2
社長メッセージ・コーポレートガバナンス	3
企業行動指針	4

■社会性報告

人間性の尊重、 快適な職場環境の確保	5
地域社会との協調、 社会貢献活動の推進	6

■環境報告

環境マネジメントシステム	7
環境保全活動の概要	8
環境会計	9
物質収支・含有化学物質管理	10
環境負荷低減の取組み	11
省エネ対策事例	12
資源活用の取組み	13
アンケート	14

編集方針

このレポートは双信電機グループの社会・環境にかかわる取り組みを報告しています。

【対象期間】

2016年4月～2017年3月

【対象範囲】

双信電機株式会社
双信パワーテック株式会社
双信デバイス株式会社
立信電子株式会社
双信エレクトロニクスマレーシア
2017年6月発行

■会社概要 (2017年3月末現在)

社名：双信電機株式会社
英文名 SOSHIN ELECTRIC CO.,LTD.
URL <http://www.soshin.co.jp>

東京本社 〒105-0023
東京都港区芝浦1丁目1番1号 浜松町ビルディング14F
Tel.03-5730-4500 Fax.03-5730-4504

創業：1938年（昭和13年）12月
設立：1944年（昭和19年）4月
資本金：3,806百万円（2017年3月末現在）
従業員数：816名（2017年3月末現在）

■事業拠点

【国内営業拠点】

東京・営業本部
大阪営業所 / 名古屋営業所 / 佐久営業所 / 九州営業所

【国内製造・技術拠点】

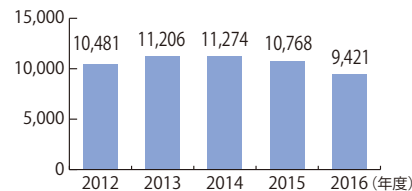
浅間工場、千曲技術センター

【グループ会社】

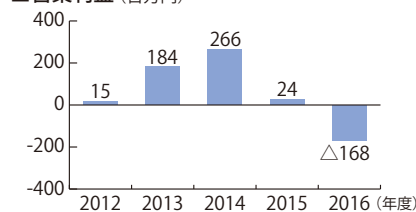
双信パワーテック株式会社
双信デバイス株式会社
立信電子株式会社
双信エレクトロニクスマレーシア
双信エレクトロニクス・オブ・アメリカ
双信エレクトロニクスヨーロッパ
双信華科技（深圳）有限公司
台湾双信電機股份有限公司

■財務ハイライト

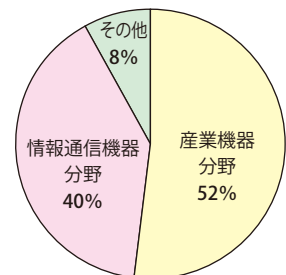
■売上高 (百万円)



■営業利益 (百万円)



■市場別売上高比率 (2016年度)



事業領域と関連製品

双信電機グループは産業機器分野と情報通信機器分野で時代のニーズとお客様の期待に応える電子部品を提供しています。

産業機器分野

・ノイズ関連分野

半導体製造装置や工作機械などの産業分野、空調エレベーターなど暮らしを支える設備、地球環境への負荷低減が期待される太陽光発電システムなどの環境・省エネ設備でノイズ障害対策のニーズが高まっています。

当社の EMC 製品はこれらの装置・設備から発生するノイズ問題を解決し多くの分野で活躍しています。

また、大型電波暗室やオンサイト（出張）によるノイズ測定・診断など、トータルのサポートでお客様のニーズにお応えしています。

・カーエレクトロニクス、鉄道

高い信頼性が要求される自動車関連には、普及が進むプラグインハイブリッドカー（PHEV）や電気自動車（EV）用の急速充電機器などにノイズフィルタ、コンデンサなどが使用されています。

また、鉄道車両や鉄道運行管理システムでは各種フィルタやコンデンサが安全安心を支えています。



太陽光発電用ノイズフィルタ



浅間テストラボ電波暗室



ノイズ測定診断車



ノイズフィルタ



フィルムコンデンサ

情報通信機器分野

・情報通信インフラ

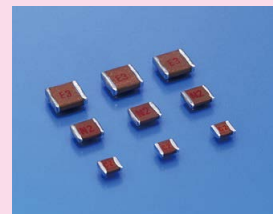
カプラなどの高周波部品やフィルタ、コンデンサが携帯電話基地局などの情報通信システムを支えています。

・情報通信端末

進化し続けるスマートフォンやタブレット端末の無線 LAN やブルートゥース通信モジュールなどに積層誘電体フィルタが採用されています。



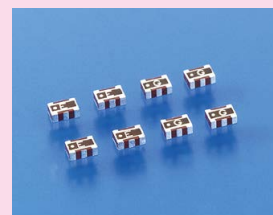
LC フィルタ



チップマイカコンデンサ



カプラ



積層誘電体フィルタ

社長メッセージ



代表取締役社長
上岡 崇

企業が果たすべき社会的責任の遂行は、事業環境や社会情勢の変化とともに対応すべき課題が多様化し様々な事態への対応を迫られるとともに、企業存続のための重要性がますます高まっております。

特に近年の不祥事の発生による企業価値の毀損が企業の存続を危うくするような事例が見受けられます。それを抑止すべく社外取締役、監査役の登用やヘルプラインの設置等の体制を整えていますが、企業トップの自覚の問題も大きく、改めてCSRに対する意識を高めると同時にグループ構成員の理解を深める活動を推進して参ります。

当年度におきましても、コンプライアンス意識の向上に向けた社長メッセージの発信や社外専門家を活用した指導や助言を得て活動して参りました。また環境負荷低減につきましては、生産拠点の統合や生産性の向上、不良品削減による原材料ロスの削減等に努力して参りました。さらに、社会貢献の点につきましても、恒例となっておりますスポーツ大会の実施や各種ボランティア活動を通じて、地域の皆さまと積極的な交流を実施致しました。

今後も上記の様々な活動を通じて社会的責任を果たしていくとともに企業価値の向上に努めて参ります。

◆コーポレートガバナンス

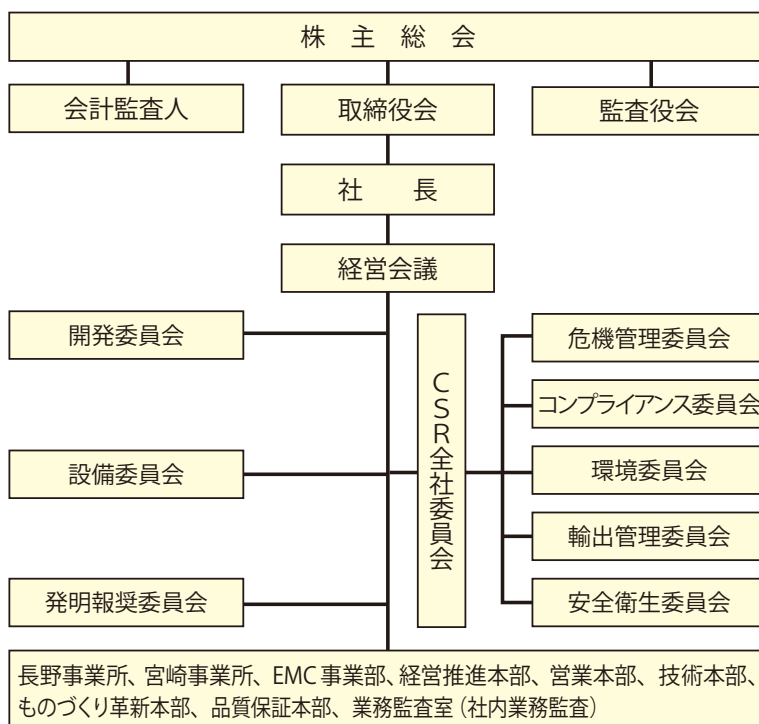
双信電機グループは、企業価値の向上を図ることを経営上の重要な課題の一つと位置づけております。

コーポレート・ガバナンスの強化は、事業活動の適法性と経営の透明性を高め、会社に関わる全てのステークホルダー（株主、顧客、従業員、取引先、地域社会）から信頼される企業となることに繋がり、企業価値の向上に資する重要な施策と考えております。

その実現に向け、経営組織体制の整備、経営効率の向上、経営監視機能の強化といった取締役会、監査役会等の責務を明確にし、法令順守の徹底に努めております。

また、株主の権利、平等性の確保と対話の促進により、相互に信頼できる関係を築きます。

ガバナンス体制





双信電機グループ企業行動指針

I 企業理念の実現

【1】より良い社会環境に資する商品の提供

長期のグローバルな視点に立ち、地球環境を守り社会の安全・安心を実現する商品やサービスの提供を通じて、新しい価値の創造に取り組みます。

品質と安全性の追求により、お客様と社会からの信頼を獲得します。

II 企業活動のあり方

【2】企業情報の開示

経営の透明性を高め、日本ガイシグループに対する社会の信頼を得るために、経営情報、財務情報、商品・サービスに関する情報など、広く社会が求める情報を正確かつタイムリーに発信します。

【3】コンプライアンスの徹底、リスクマネジメント

各国、地域の法令やルールを守り、国際間の取決めを尊重して、コンプライアンスを徹底します。誠実で高い倫理観のある人材を育成します。また、内部統制システムの構築とリスクマネジメントの実践を通じて、会社の資産や信用、第三者の権利を守ります。

【4】人間性の尊重、快適な職場環境の確保

人材の採用、処遇は公正・公平に行い、安全・快適で、家庭と両立する働きやすい職場環境を提供します。

多様な人材が挑戦できる場と機会を設け、知識や技術の習得を通じて人材の成長を支援します。職場におけるいじめ、差別、ハラスメントなど人権に反する行為の発生を防止し、違反行為があった場合には迅速に適切な対応をとります。

【5】公正、自由、透明な取引の実践

対等な良きパートナーとして、取引先との共存共栄を目指し、公正、自由、透明な取引を行います。また、日本ガイシグループのサプライチェーン全体で、企業の社会的責任を果たす取り組みを推進します。

III 社会の一員として

【6】地球環境の保全

事業活動を行うすべての拠点、すべてのプロセスで、率先して環境負荷の低減に取り組み、地球環境の保全に貢献します。地域の環境保全活動に協力し、従業員の取り組む活動も積極的に支援していきます。

【7】地域社会との協調、社会貢献活動の推進

各国、地域の社会的課題に関心を持ち、地域に信頼される企業市民であることを目指して、地域のニーズに応じた社会貢献活動に積極的に取り組みます。

【8】ステークホルダーとのコミュニケーション

お客さま、取引先、株主、従業員、地域社会の方々など、すべてのステークホルダーとの対話を通じて、日本ガイシグループへの理解を広げるとともに、寄せられた意見に基づいて会社の活動をレビューし、社会的責任を果たすための取り組みに活かしていきます。

社会性報告

人 間性の尊重、快適な職場環境の確保

◆雇用・採用に関する基本方針

双信電機グループでは事業の中長期成長を見据えた人員計画を立て、雇用の安定に努めています。新卒の計画的採用を行うと共に、社内ローテーションを積極的に展開し、必要な能力・経験を持った人材の適正配置を進め、社員の働き甲斐、働き易さを意識した活動を推進しています。

◆個性と多様性の尊重

障害者雇用については法定雇用率 2.0%を超える 2.64%（2017 年 4 月実績）となっています。また、定年退職後の再雇用制度を導入し、フルタイム、パートタイムなど個人のセカンドライフプランに合わせた柔軟な勤務形態を用意しました。

◆ワークライフバランスの実現

女性社員の多くが産前産後休暇や育児休暇制度を利用し、仕事と育児の両立を果たしています。

このほか、リフレッシュ休暇制度や計画有給取得制度を活用し、心身のリフレッシュを図れる制度を整えています。

◆安全衛生

双信電機グループでは、従業員の安全及び健康を確保し、快適な作業環境の形成を促進すると共に、業務災害ゼロを目指して安全衛生活動を最優先に積極的に展開しています。

主な活動としては、危険要因の顕在化を目指した活動を行い、全国労働安全週間と全国安全衛生週間にあわせ、ヒヤリハット活動・危険予知トレーニングを実施し、従業員からの提案に対処し、大きな成果を上げています。更に拠点相互の設備事故未然防止相互パトロールも半期ごとに実施し、安全を確かなものにしています。

また、昨年度よりストレスチェックを実施し従業員の健康増進を目的に、保健師を活用した健康管理体制も充実させ、従業員の心身の健康維持に努めています。

このような活動により、双信電機グループにおいては重大な業務上災害は過去 6 年間発生していません。引き続き従業員の安全確保と健康維持を最優先に活動を継続していきます。

◆こころの健康づくり

双信電機グループではメンタル不調に関する知識習得、セルフケア、ラインケアなどについて研修会などを実施し、産業医、顧問医、保健師、カウンセラー、産業保健スタッフが一致団結してこころの健康づくりに取り組んでいます。

また、長時間労働対策に関しても強く推進しており、残業時間の管理徹底、管理職への教育、定時退社日の徹底などを実施しています。



管理職研修



佐久消防署員による救命法（AED）講習会

地域社会との協調、社会貢献活動の推進

国際ボランティアデー 社会貢献一斉アクション

東京本社が入居するビル内の企業が共同してフェアトレード商品の販売を行ない、開発途上国の生産者支援に参加しました。

※フェアトレードとは、適正価格で商品を購入することで、生産者の生活を支援する仕組みです。



双信電機杯スポーツ大会による 地域との交流

第16回双信カップテニストーナメント



第31回双信電機杯バレーボール大会



高齢者総合支援センターの 避難訓練参加協力

双信パワーテックにて近隣の高齢者総合支援センターの避難訓練に協力しました。



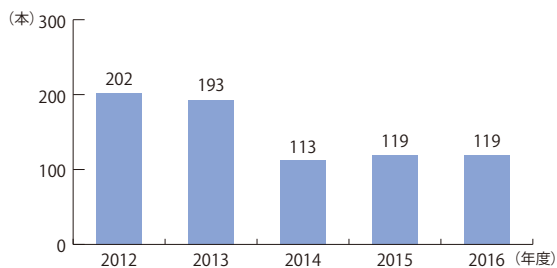
インターンシップの受け入れ

長野・宮崎地区において、地元の高校生の工場見学や職場体験を実施しました。



エコキャップ運動

2008年より活動を始め、2016年度は119本のワクチン数となりました。



クリスマスプレゼント

双信パワーテック及び双信デバイスの近隣の保育園にそれぞれクリスマスプレゼントを贈りました。



環境報告

環境マネジメントシステム

双信電機グループ環境方針

1. 法令・協定・顧客との取り決めおよび自主基準を順守する。
2. 環境目標を設定し、組織的・継続的な環境負荷低減活動を地域社会とともに推進する。
3. 環境に配慮した製品の開発・設計・製造販売を行う。
4. 環境汚染の予防処置と監視を行う。
5. 教育・啓発活動を進め、従業員および事業にかかわる人々すべての役割・責任についての自覚高揚を図る。

◆環境保全活動の推進体制

環境保全に関する双信電機グループの方針・施策は、環境管理担当役員を委員長とする「環境委員会」で決定をします。ここで決定した方針・施策は、各サイトの工場長・拠点長、環境管理責任者を通じて全社に展開されます。

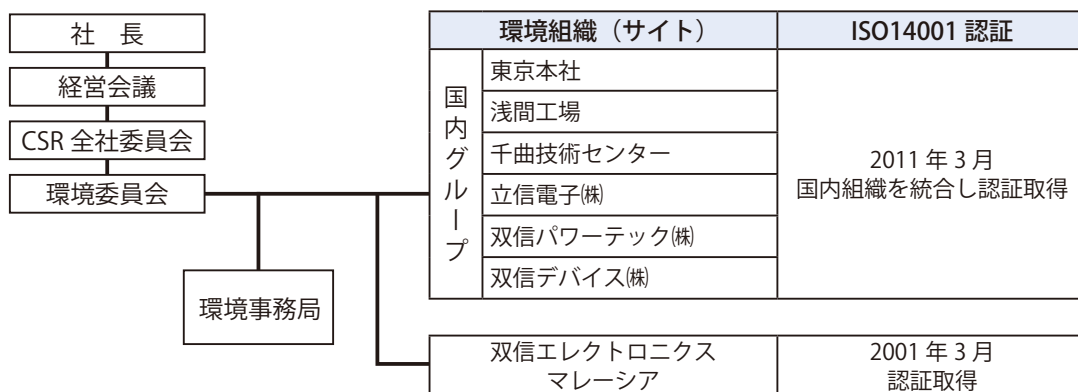
環境組織の活動として、半期ごとに開催される環境委員会の他、環境会議・エネルギー管理会議を毎月交互に開催し、CO2排出量や産業廃棄物排出量などの目標の進捗管理のほか環境に関する情報交換などを行い、環境保全活動を継続的に推進しています。

◆ISO14001 認証・環境監査

双信電機グループは、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を2000年に浅間工場で取得し、2002年に国内全製造部門で、2011年には本社（管理・営業部門）を含め、国内組織を統合した認証を取得しています。（双信エレクトロニクスマレーシアはマレーシア国内の別認証機関にてISO14001を取得しています。）

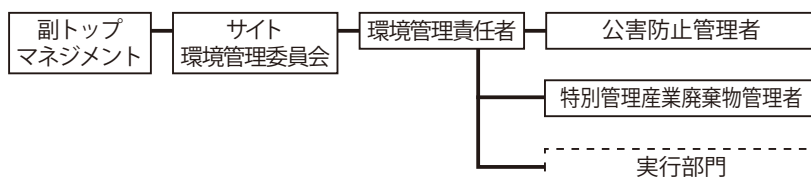
環境監査は認証機関による外部監査、環境管理室による環境査察、実行部門が行う内部環境監査を実施しています。（2017年3月末現在の内部環境監査員は175名です。）

環境保全組織



ISO14001 認証機関による監査

各サイト環境組織



環境保全活動の概要

双信電機グループの環境活動は、環境目的とそれを達成するための環境目標を設定し、自主的な環境保全に努めています。

◆ 2016 年度活動報告および 2017 年度目標

【CO₂ 排出量】

2016 年度の環境負荷低減活動としての CO₂ 排出量は、目標を達成しました。

2017 年度は CO₂ 排出削減の取り組みとして、2016 年度に引き続き、照明の LED 化を含む省電力設備への段階的な変更を検討します。

生産性向上、稼働設備ロス・負荷低減、省エネパトロールによる無駄の排除につきましても、継続して実施していきます。

【産業廃棄物排出量】

2016 年度は計画的な廃棄物管理を実施したことで目標を達成しました。今後も計画的に廃棄物排出量の管理を実施していきます。

【含有化学物質の管理強化】

RoHS 指令におけるフタル酸エステル類規制への対応や、REACH 規則においても管理対象物質が年々追加されており、製品に使用する物質への制限・管理が厳しくなっています。

双信電機グリーン調達ガイドラインに基づき、最新の規制情報にあわせた管理を実施しています。また、製品構成部材の含有化学物質管理を目的に、仕入先の環境品質監査を実施し、グリーン調達活動を進めています。グループ内においては、含有化学物質に関する監査を環境査察時に実施し、管理強化を図っています。

【環境に関する苦情・事故の有無】

2016 年度は環境に関する苦情・事故は発生しておりません。

2017 年度も苦情・事故が発生しないように、地域環境保全に向けた活動を継続していきます。

◆ 主な環境保全活動

項目	2016 年度実績			2017 年度目標
	目標	実績	自己評価	
環境マネジメントシステム (ISO14001)	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育と啓蒙活動を継続します。 環境マネジメントシステム 2015 年版の 2017 年移行審査受審に向けて、具体的な活動を展開します。 環境法規制を順守します。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の周知、環境目標などの環境教育を実施しました。 環境マニュアルおよび関連する仕様書類を、環境マネジメントシステム 2015 年版に合わせて見直しを行いました。 環境法規制は順守継続できました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育と啓蒙活動を継続します。 環境マネジメントシステム 2015 年版の 2017 年移行審査受審準備のため、各部門・内部環境監査員への教育と水平展開を行います。 環境法規制を順守します。
地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> 国内の CO₂ 排出量を 2015 年度比 10.3% 削減します。(CO₂ 原単位排出量を 2015 年度比 18.6% 減にします。) 	<ul style="list-style-type: none"> 国内の CO₂ 排出量は 2015 年度 7,505t に対し、2016 年度は 6,758t と 9.9% 減少しました。(CO₂ 原単位排出量は 2015 年度比 1.4% 増加しました) 	×	<ul style="list-style-type: none"> 国内の CO₂ 排出量を 2016 年度比 4% 増以下にします。(CO₂ 原単位排出量を 2016 年度比 3.1% 減にします)
生物多様性保全 廃棄物管理活動	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量を 2015 年度比 16.3% 増以下にします。(ゼロエミッションを継続します) 野生生物の保護を行っている NPO 法人の活動を支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量は 2015 年度 123t に対し、2016 年度は 119t と 3.3% 減少しました。(ゼロエミッションを継続しています) NPO 法人への支援を実施しました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量を 2016 年度比 21% 増以下にします。(ゼロエミッションを継続します) NPO 法人の活動支援を継続します。
化学物質の適正管理 および 有害化学物質の削減	<ul style="list-style-type: none"> 蛍光 X 線分析装置による検査を継続します。 双信電機 グリーン調達ガイドラインを改訂します。 仕入先環境品質調査を実施し、グリーン調達を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> 検査対象の受入部材の検査を実施し、受入段階での異常ロットを検出し適切に対処しました。 双信電機 グリーン調達ガイドラインを改訂しました。 仕入先環境品質調査を計画通り実施し、クリーン調達を推進しました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 蛍光 X 線分析装置による検査を継続します。 仕入先環境品質調査を実施し、グリーン調達を推進します。 製品含有化学物質の情報伝達のための共通スキーム chem SHERPA へ対応します。
	<ul style="list-style-type: none"> 全社の鉛フリー識別順守の確認を継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境査察を実施し順守状況を確認しました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 全社の鉛フリー識別順守の確認を継続します。

環境報告

環境会計

◆環境会計の導入

双信電機グループは、環境保全目的として支出した金額を投資額と費用でとらえ、その効果を定量的に把握するために2001年度より環境会計を導入しています。

集計にあたっては、環境省ガイドラインに準じて2016年度（2016年4月1日～2017年3月31日）の実績を集計しました。

◆環境保全対策にともなう経済効果

2016年度の経済効果は1,128万円で、地球環境保全効果が前年度比41.6%減、資源循環効果が前年度比53.7%減となりました。

◆環境保全コスト

双信電機グループにおける2016年度環境保全コストの内、投資額では省エネ型設備の導入、機種の入替えなどを行い103万円投資し、前年度比95.7%減となりました。費用額全体としては2,589万円と前年度比16.1%減、主に管理活動コストが前年度比17.9%減、社会活動コストが51.6%減となりました。

◆環境保全コストおよび経済効果

単位：万円

分類	主な取り組み内容	投資額		費用額		経済効果	
		2015年度	2016年度	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度
公害防止コスト	公害防止のために必要な投資及び費用	0	0	203	244	—	—
地球環境保全コスト	省エネ設備導入などCO ₂ 削減のために必要な投資及び費用	2,424	103	71	156	775	453
資源循環コスト	節水など資源効率利用、廃棄物の削減・リサイクル・処理・処分するために必要な投資及び費用	0	0	1,054	1,028	1,458	675
上・下流コスト	事業活動に伴う上流下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト	0	0	0	0	—	—
管理活動コスト	ISO14001認証取得・維持、環境教育、環境負荷の監視測定など環境保全に必要な費用及び人件費	0	0	922	757	—	—
研究開発コスト	環境負荷削減の研究開発・企画設計、環境保全に資する製品開発・研究に必要な費用及び人件費	0	0	0	0	—	—
社会活動コスト	自然保護、緑化、地域の環境支援、環境情報の公表、環境広告に必要な費用	0	0	834	404	—	—
環境損傷コスト	土壌汚染による改良、自然破壊修復などに必要な費用	0	0	0	0	—	—
合計		2,424	103	3,084	2,589	2,233	1,128

物質収支(インプット - アウトプット)

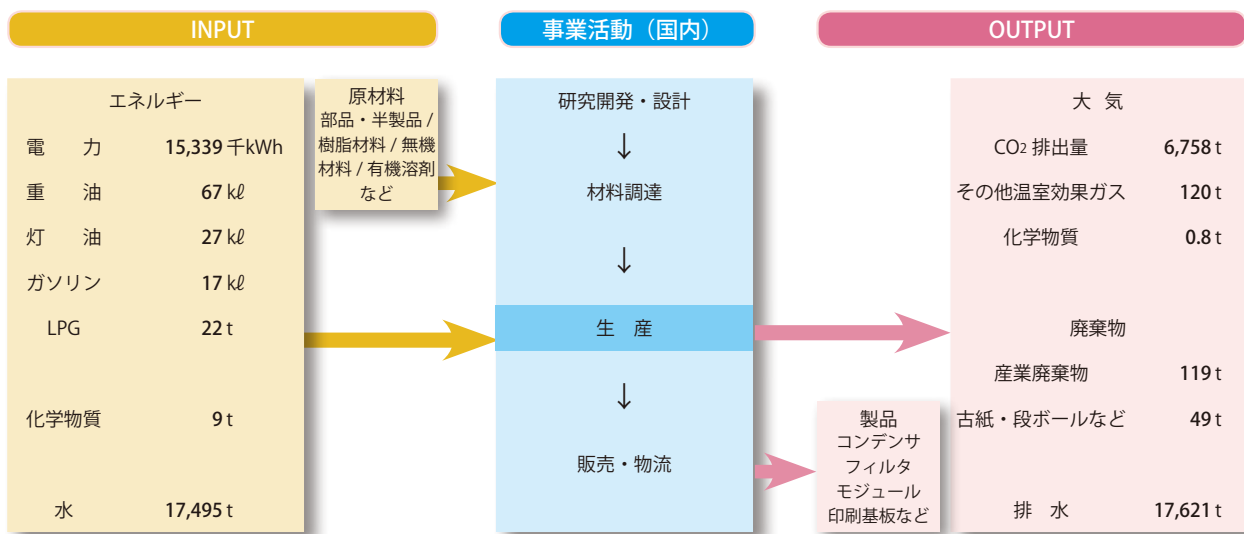
双信電機グループの国内における事業活動に関して、インプットされた資源・エネルギーと生産された製品、廃棄物およびその他の排出物を示します。

インプット・アウトプットの概要

インプットとしては、事業活動に必要な部品、原材料、エネルギー、化学物質、水などによって構成されます。

アウトプットとしては、製品生産活動にともなうCO₂ 排出、排水、廃棄物などがあります。

双信電機グループでは製品以外のアウトプットを削減するため、省エネ改善や資源枯渇の観点からインプットを極力削減する活動を行っています。



含有化学物質管理

◆含有化学物質調査

双信電機グループでは 2006 年度にお客様の要求による一部の製品を除き鉛フリー化を終了、その他の禁止物質も廃止し、RoHS 指令への適合が完了しています。また、得意先様の製品含有化学物質調査依頼に対応するため、化学物質管理データベースを運用し、迅速に回答できる体制を整えています。

◆グリーン調達

双信電機グループでは環境負荷の少ない部品・材料の調達を進めており、2016 年 4 月に「グリーン調達ガイドライン第 6 版」を発行し、仕入先による積極的な取り組みとご協力をお願いしています。

この他、仕入先への環境品質調査を実施し、化学物質管理に問題が無いことを確認しています。

◆蛍光 X 線分析

禁止物質を含有する恐れのある部品・材料については、社内で蛍光 X 線分析装置によるスクリーニング検査を実施し、非含有であることを確認しています。

◆ chemSHERPA への対応

今期よりお客様からの調査依頼で使用される可能性のある chemSHERPA (サプライチェーン全体で利用可能な製品含有化学物質の情報伝達のための共通スキーム) について、対応します。

環境報告

環境負荷低減の取り組み

地球温暖化防止への対応として、省エネ等 CO₂ 排出量削減に取り組んでいます。

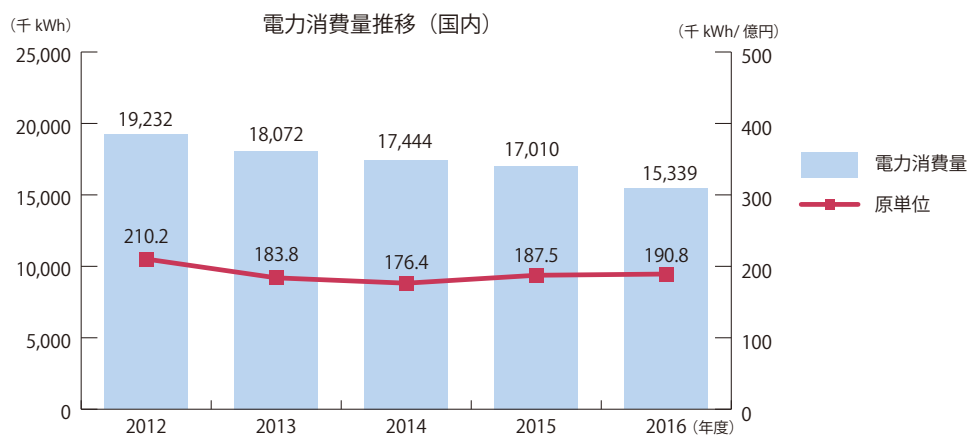
2016年度の国内電力消費量は、省エネ型機器の導入や節電・省エネパトロールによる対策の上積みにより、前年度比9.8%減となりました。一方、売上高の減少が影響し、電力消費量を売上で割った売上高原単位は、前年度比1.8%増となりました。

海外拠点の電力消費量は、前年度比8.6%減、売上高原単位は11.8%増となりました。

CO₂ 排出量はその9割以上が電力消費に起因しています。国内のCO₂ 排出量は前年度比10.0%減、売上高原単位は、前年度比1.7%増となり、海外拠点でのCO₂ 排出量は、前年度比8.9%減、売上高原単位は、前年度比11.3%増となりました。

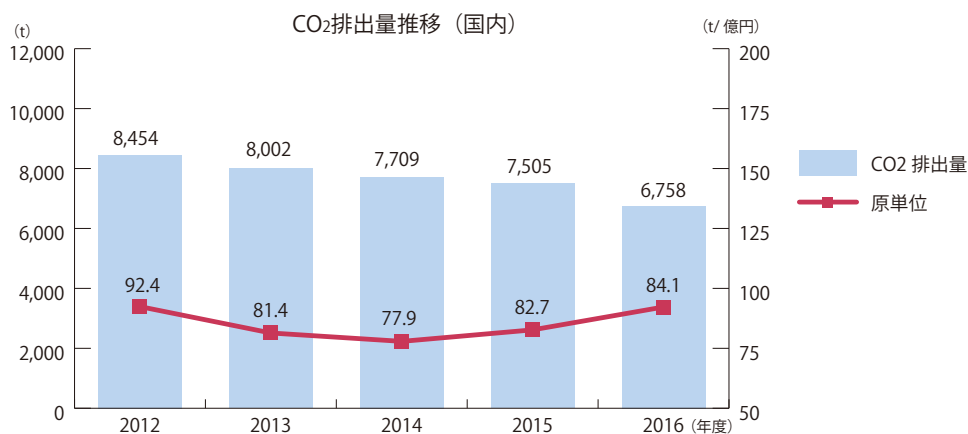
2017年度のCO₂ 排出量は、前年度実績に対し4.0%増以下を目標とします。(CO₂ 排出量は原単位排出量を2016年度比3.1%減を目標にします。)

◆電力消費量



電力消費量推移 (海外)	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
電力消費量 (千 kWh)	1,405	1,237	1,110	1,247	1,140
売上高原単位 (千 kWh/億円)	156.1	114.5	91.7	110.8	123.9

◆CO₂ 排出量



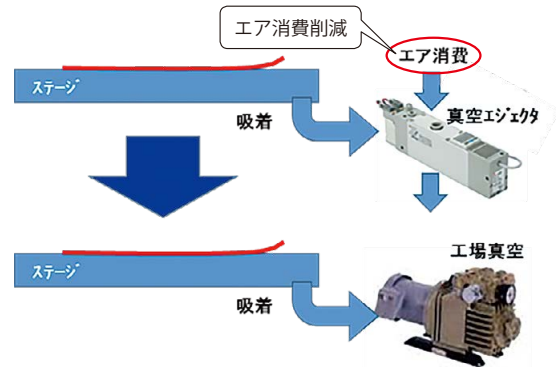
CO ₂ 排出量推移 (海外)	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
CO ₂ 排出量 (t)	595	524	468	528	481
売上高原単位 (t/億円)	66.1	48.5	38.7	47.0	52.3

省 エネ対策事例 ●

(1) 製品吸着機能の変更

従来は、シート材料のテーブル上吸着機能に圧縮空気を使用したエジェクタ真空発生器(純正部品)を用いていました。これを、工場真空を用いることで圧縮エアーの浪費を抑え、コンプレッサエアーの負荷を軽減できました。

(コンプレッサエアー負荷を年間で 1,200kWh 削減)



(2) テープ成形棟空調機 OA ダンパ開閉

テープ成形工程は、冬季は凍結防止のために、空調機を運転していますが、暖房用電気ヒーターで約 10kWh も電気を使用していました。生産していない時には、空調機の外気導入用ダンパを閉じるようにし、冷たい外気が入って来ないようにした結果、約 60% の電力削減になりました。

(消費電力を年間で 25,895kwh 削減)



(3) 浅間工場旧館空調機送風ファンの設定変更

浅間工場旧館の空調機は送風ファンにインバータを取り付けてあり、冷暖房時以外は 60HZ から 20HZ となるように設定していました。さらなる省エネを図るため、冷暖房時以外は 20HZ から 0HZ に設定変更を行いました。

(消費電力を年間で 3,060kwh 削減)



環境報告

資源活用の取り組み

双信電機グループは、環境保全のため、循環型社会の形成を重要視しています。グループ内の事業活動で排出される廃棄物を資源として捉え、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進します。

また、法に基づいた処理が適正に行われるように、行政に認可を受けた廃棄物処理業者とのみ委託契約を結び、マニフェスト（廃棄物管理表）の発行、処理記録を残しています。

廃棄物処理業者については、処理現場の定期的な現地視察を行い管理しています。

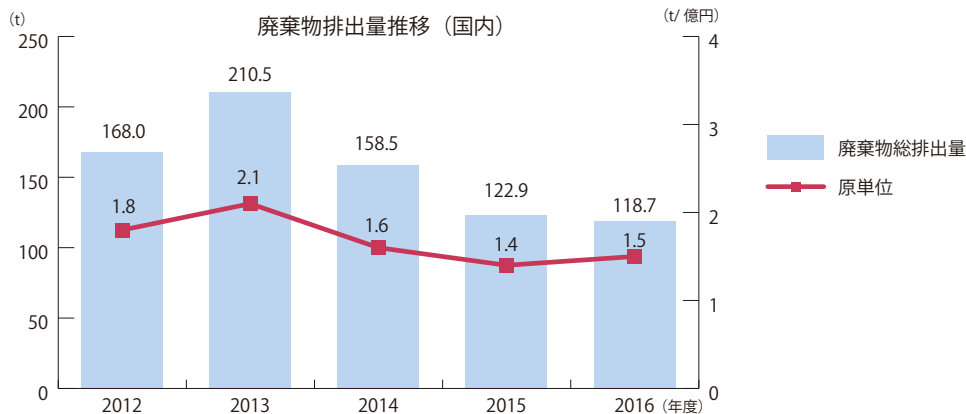
2016年度は11社13事業所を視察し、処理に問題が無いことを確認しています。

国内の廃棄物排出量は前年度比3.4%減、売上高原単位も6.7%増となりました。

2017年度の廃棄物排出量の目標は、前年度比21.0%増以下になる様、削減に取り組めます。



◆廃棄物排出量



廃棄物排出量推移（海外）	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
廃棄物排出量 (t)	3.8	7.6	7.0	9.4	13.0
売上高原単位 (t/億円)	0.4	0.7	0.6	0.8	1.4

TOPICS

◆佐久咲くひまわりシンポジウム

双信電機が加盟している「有限責任事業組合（LLP）佐久咲くひまわり」は佐久市が行うメガソーラー事業に貢献すると共に、地域で環境保全活動や環境教育・啓蒙活動などに積極的に取り組んでいます。

平成28年9月24日開催の第7回佐久咲くひまわりシンポジウムにおいて、気象予報士の井田寛子さんをお招きし、『地球温暖化と近年の異常気象～自然エネルギーは地球を救えるか～』をテーマに講演をしていただき、多くの皆さんにご参加いただきました。



「2017 社会・環境レポート」アンケート

双信電機グループの「2017 社会・環境レポート」をお読みいただき、ありがとうございます。

この報告書について、是非ご意見ご感想をお寄せください。

いただいたご意見・ご感想は、今後の環境保全活動及び弊社レポート作成の参考にさせていただきます。

*以下の質問に該当する項目にを入れてください。

Q1 弊社レポートをお読みになった感想をお聞かせ下さい。

1) 全体の印象について

良い

ふつう

悪い

2) わかりやすさについて

良い

ふつう

悪い

3) 内容について

良い

ふつう

悪い

Q2 弊社レポートで特に興味を持たれた記事があればお聞かせ下さい。

() ページ テーマ ()

Q3 環境保全活動や弊社レポートについてのご意見・ご感想をお願いします。

ご意見・ご感想

ご協力ありがとうございました。差支えなければ下欄にもご記入をお願いします。

*ご記入いただいた個人情報についてはアンケート記載の用途以外には使用しません。

お名前： _____ 男・女 _____ 年齢 _____ 歳

ご住所： _____

ご職業・勤務先： _____

お手数ですが下記あてに FAX または Eメールをいただければ幸いです。

送付先 **双信電機株式会社 環境管理室 宛**

Fax. 0267-68-4553 Tel. 0267-67-4580

E-mail:environment@soshin.co.jp



2017 社会・環境レポート



双信電機株式会社
SOSHIN ELECTRIC CO., LTD.

URL : <http://www.soshin.co.jp>

〒105-0023 東京都港区芝浦1丁目1番1号 浜松町ビルディング14F
Tel: 03-5730-4500 Fax: 03-5730-4504

この報告書の内容に関するご意見・お問い合わせ先
環境管理室

Tel: 0267-67-4580 Fax: 0267-68-4553
E-mail: environment@soshin.co.jp

